

西曆 2026 年度 事業計画

社会福祉法人 千鳥会

目 次

法人本部	4~6
千鳥会ゴールド拠点 津名デイサービスセンター	7~8
ゆうらぎ拠点・北淡荘 ゆうらぎデイサービスセンター ゆうらぎ訪問介護ステーション 養護老人ホーム 北淡荘	8~12
ほほえみ拠点 地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ 千鳥会デイサービスセンターほほえみ 小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	12~17
LEVN 小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり 千鳥会居宅介護支援事業所 千鳥会在宅介護支援センター 家族介護教室・家族介護者交流事業 高齢者住宅等安心確保事業 ちびっこランドぬくもり グループホームRAVIE	17~22
グループホーム しおさい しおさいデイサービスセンター	22~24
佐野デイサービスセンター	24
ちびっこランド ちどり	25~26
千鳥会福祉用具貸与事業所	26

法人本部 事業計画書

西暦 2026 年度目標

2025 年度は、わが国では初の女性総理大臣誕生し、千鳥会でも初の女性理事長が誕生しました。1986 年の男女雇用均等法施行から約 40 年、一つの大きな節目を迎えたと思っております。当法人においても職員の 3 分の 2 を占める女性の活躍が発展の原動力となり、性別を問わず誰もがより一層輝ける福祉環境が構築できた年と成りました。経済面では、物価高騰が生活や法人運営に深刻な影響を及ぼし、実質賃金の維持が喫緊の課題となった年でもありました。

2026 年度は、慢性的な人材不足対策として、昨年度迎え入れた特定技能実習生の定着化への取組を強化すると共に、介護ロボットや ICT 機器を活用し、介護現場の効率化、職員の負担軽減、高齢者の自立支援を図り、生産性向上推進体制加算を取得するなど、2027 年度の報酬改定を待たず前倒しで 6 月から開始される処遇改善加算の特例要件を満足し、加算の上乗せを取得することにより、法人運営に適切な収益確保に努めて参ります。この度は、物価高騰対策として国による処遇改善加算も前倒しで進められていますが、補正予算による一時的な対応に留まらず、報酬体系への抜本的な見直しや物価スライド制の導入など、持続可能な制度設計の提言・要望等を継続して実施することにより、高品質なサービス提供と安定した法人運営ができるように努力して参ります。

『西暦 2026 年度法人取組課題』

I 利用者に対する基本姿勢

- ① 人権の尊重
- ② サービスの質の向上
- ③ 地域との関係の継続
- ④ 生活環境・利用者環境の向上

II 社会に対する基本姿勢

- ① 地域における公益的な取り組みの推進
- ② 信頼と協力を得るための情報発信

III 福祉人材に対する取組

- ① トータルな人材マネジメントの推進
- ② 人材確保に向けた取り組みの強化
- ③ 人材定着に向けた取り組みの強化
- ④ 人材育成

IV マネジメントにおける基本姿勢

- ① コンプライアンス(法令等遵守)の徹底
- ② 組織統治(ガバナンス)の確立
- ③ 健全な財務規律の確立
- ④ 経営者としての役割

1. 理事会開催計画

回	開催年月	協議内容
第1回	2026年 6月	理事会（前年度事業報告・決算報告・監事監査報告）
第2回	2026年 8月	理事会（経営・運営等の現状報告）
第3回	2026年 12月	理事会（経営・運営等の現状報告・補正予算）
第4回	2027年 3月	理事会（新年度事業計画・新年度予算）

※ 臨時理事会を開催する場合があります。

評議員会開催計画

回	開催年月	協議内容
第1回	2026年 6月	評議員会 （前年度事業報告・決算報告・監事監査報告）

※ 臨時評議員会を開催する場合があります。

※ 監事による監査等

開催年月	協議内容
2026年 5月	前年度収支決算の監査

決算書類等の備置・閲覧

定時評議員会の2週間前から備置

3 重点項目

① ちびっこランドぬくもり定員変更

6名 ⇒ 12名

② 災害時支援体制の構築に向けた取組

地域に根差し共生できる法人として、力を合わせて災害時への適切な備えと訓練を継続し、ご利用者、ご家族並びに地域の住民の信頼にお応えできるように、BCP事業継続計画に基づき、平時から法人間等で災害福祉の視点を取り入れ、相互支援体制の構築に向けた取り組みを推進し実効性のあるものとしていく。

③ 福祉の人材確保(採用・育成・定着)と効果的な広報戦略

福祉の人材確保(採用・育成・定着)に向けた取り組みをさらに強化していくために、効果的な広報戦略と合わせて福祉の職場に対するイメージアップを図るとともに、処遇改善施策、「働き方改革」、現場における生産性向上とICT等の活用に向けた取り組みを行っていく。

人材不足の解消対策として特定技能実習生（外国人）定着化の強化を図ると共に、多様な福祉人材を促進するため、高齢者・障害者なども視野に入れ、短時間労働やダブルワークなど多様な働き方の推進なども取り入れ、情報発信していく。

- ④ 介護分野の職員の賃上げ・職場環境改善支援事業
介護ロボットやケアプランデータ連携システムの利用を促進することにより、特例要件を満足し、処遇改善加算の上乗せを取得する。

- ⑤ 着実な事業実施のための経営基盤づくり
目標利用率の確保・達成
予算執行管理の徹底とコスト意識の向上

千鳥会ゴールド拠点

2026 年度事業方針

- 1-1.個人の尊厳に配慮した良質かつ安心・安全なサービスの提供に努める。
- 2-1.実効性のある消防計画・防災計画を整備し、災害時にもサービス提供を継続できる体制を整備しておく。
- 3-1.事業所が運営していくためには、ご利用者・ご家族・地域等からの信頼・協力が必要であり、「見える化」にとどまらない「見せる化」を推進し、積極的な情報発信に取り組む。
- 4-1.見守りシステム e ライブの導入に伴い、職員の無駄な時間の短縮・業務の負担軽減につなげ、効果的・効率的に使用し、利用者に良質なサービスが提供できるよう計画的に進めていく事。
- 4-2.定期的に業務の見直しを行い、「効率化」を目指し、職員の負担軽減につながるのと同時に、専門的に業務に集中できサービスの向上に繋げていく。
- 5-1.技能実習生の採用に伴い、事業所内の職員が円滑で良好なコミュニケーションを取りながら業務を進め、福祉サービスの継続と発展を推進していく。
- 6-1.社会福祉関係法令・介護保険関係法令等を遵守し、公共的・公益的かつ信頼性の高い経営を行っていく。
- 7-1.適切な収益の確保に向け、将来を見通した計画的かつ効率的な事業運営を行う。

特別養護老人ホーム千鳥会ゴールド

2025 年度 総括

人員不足により利用者の受け入れを調整した為稼働率は平均 79.55%(長期+短期:61名)となり厳しい運営状況になりました。人員を確保し運営状況を回復する為、1月より技能実習生3名(インドネシア)を受け入れしました。人材育成し安定した事業運営に繋げています。

また1年を通して大きな事故・クレーム・感染者発生も無く無事に運営することができました。取り組みとしては、感染対策を継続した上で、対面会日を増やし、ご家族参加の敬老会、季節の行事、レクリエーションの充実を図りました。また昨年度に引き続き「夢を叶えるプロジェクト(通称:夢かな)」を実施し、長期のご利用者の夢を叶えるという取り組みを行いました。施設の中でもやりがい、楽しみ、意欲的な活動ができるよう計画、実行しご利用者、ご家族から喜びの声を多数頂いています。内容としては、「自宅に帰りたい。買い物に行きたい。家族と誕生日をお祝いしたい」などになります。施設での取り組みや活動を知ってもらうためにSNSを活用し、ご家族や外部に発信することができました。現在長期入所待ちが90名(前年度比+30名)おり、選ばれる施設としての取り組み、サービスの維持ができています。2月には介護テクノロジー導入支援事業の助成金を活用し“eライブシステム(見守りセンサー等)”を導入しました。

来年度は“eライブシステム”を活用しご利用者の安全強化、職員の精神的、身体的負担の軽減に取り組み顧客満足向上、職員の労働環境の向上、業務の効率化に向けて取り組んでいきたい。

2026 年度事業計画

2026年度は、職員体制の確保、業務内容の見直し等により安定した収入の確保、サービスの向上、顧客満足、労働環境の向上を目指して取り組みます。また、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP計画に基づき災害・感染症発生時の対応など、訓練や準備見直しを行い、安心、安全な運営に努めたい。

津名デイサービスセンター

2025年度 総括

2025年度の稼働率の平均は76.1%(前年度比較:+5.25%)。延べ利用者数9655人(+714人)。新規利用者数24名(-7名)となりました。今年度稼働率が向上した要因としてはイベント内容の充実、サービスの質の向上、関係機関との良好な信頼関係を構築できた事だと考えています。

また事故、アクシデントについては、迅速な初動対応を行うことで、大きなクレームに繋がることはありませんでした。淡路市通所連絡会への参加、地域との交流の発展(津名高校文化祭参加とマルシェ、淡路高校インターンシップ・看護大学実習生の受け入れ、大町小学校との交流)、SNSを活用した取り組みの発信などを積極的に行うことでデイサービスの良さ、取り組みをアピールすることができました。

2026年度 事業計画

2026年度は、引き続き選ばれるデイサービスとしての取り組みを維持し、新しいサービス内容への挑戦、津名デイ独自の取り組みの発展を行い、安定した収益を維持していきます。また、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP計画に基づき災害・感染症発生時の対応、人材育成など、勉強会や訓練、計画を見直し安心、安全な運営に努めたい。

ゆうらぎ拠点

2026年度 事業方針

- 1-1 サービスの「安全性」と「安心感」を高めるために、予防処置を立案し潜在的な原因除去に努め、事故の低減を図る。
- 1-2 利用者一人ひとりのニーズと意識を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上に努める。
- 1-3 BCP(事業継続計画)に基づき、大規模災害や感染症などの緊急事態が発生してもサービスが継続できるように訓練を実施する。
- 1-4 高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等の教育訓練を充実させることにより、倫理意識の向上に努める。
- 2-1 基本的な感染対策を実施しながらも、視点を変え、新たな気持ちで、利用者が日々喜びを感じられる生活環境提供に努める。
- 2-2 利用者情報(既往歴・生活歴)を把握することにより、身体的・精神的に安全・安心な利用者環境提供に努める。
- 3-1 施設の様々な機能や役割を SNS・広報を通じて情報発信することにより、地域における立ち位置を明確に示す。
- 4-1 施設の魅力・提供するサービスの内容等、積極的に情報発信することにより、法人のブランド力をアピールする。
- 4-1 良質なサービスを効果的且つ効率的に提供するために、ロボットや ICT と言った先進的な技術導入を図る。
- 5-1 良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。
- 5-2 明確な目標管理(理解と合意に基づく目標設定)及び、達成に向けた支援を実施し、職員満足度向上に努める。

5-1 特定技能実習生の専門技術習得支援に努める事により、安定したサービス提供と組織への定着化を図る。

6-1 就業規則、介護保険、労務関係、その他の規則を遵守し、法令及び規則違反の撲滅を図る。

7-1 稼働率の向上・経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入を確保する。

7-2 経営状況と財務状況を正確に把握し、透明性の高い財務管理を実施する。

特別養護老人ホームゆうらぎ

2025 年度 総括

ゆうらぎでは普段より安全・安心を目標にリスクマネジメントへの取り組みを行っており骨折を伴う事故については骨折等、受診を伴う重大アクシデントについては 0 件と大きく減少しています。ただ認知症等による危険認識が難しい利用者様も多く転倒・転落による事故が年間平均 100 件以上と高い件数となっています。ゆうらぎにおいても継続した予防対策に取り組むところにはありますが危険予測が難しいケースも多くあり、大きなアクシデントに至る可能性が高いインシデントも増えています。職員による見守りによる対応だけでは事故を防ぎきることは難しい為、今後、継続した予防対策の他、介護ロボットによる見守りシステム導入を行い事故件数の減少に努めていきたいと思ひます。

感染症への対策についてはBCP 感染計画に基づき感染対策訓練を年 2 回実施しコロナウイルスだけでなくインフルエンザやノロウイルス等の感染症全般に対し予防できるよう取り組みを継続しています。災害訓練についても自然災害発生時における BCP 災害計画に基づき、自家発電稼働訓練や非常食の確認、連絡体制の再確認等に取り組んでいます。

施設利用状況について 2025 年度については、介護職員の不足や病気による休職が重なりサービス提供の維持が難しくなり、5 月～7 月までの 2 ヶ月間、新規利用者様の受け入れを休止する事態になっています。8 月以降、積極的な新規利用者様の受け入れ再開を行ったものの、体調不良等による利用キャンセルや入院、退所が続き年間平均 90% 以下までの施設稼働状況が落ち込んでいます。介護職員不足がより厳しくなっており、サービスの休止や縮小の判断を迫られる場面が多くなっていることを受けて 2026 年 1 月よりインドネシア人、ミャンマー人介護職員の雇用を開始、外国人の方々の力も借りて、安定した利用者様の受け入れやサービス維持に努めたいと思ひます。文化や言語の違いによる障害もありますが、今後、外国人雇用体制の安定化に取り組んでいきたいと思ひます。大きな変化にゆうらぎ全体として試行錯誤を繰り返しており、戸惑いもありますが、千鳥会の理念である「心と心」を大切に、人との信用や信頼を何よりも重んじながら、利用者様や家族様にご迷惑をおかけすることのないよう、ゆうらぎ全体で精一杯取り組んでまいります。

2026 年度 事業計画

社会全体として介護職員不足が続く中にありますが外国人職員の業務安定化に取り組み日本人職員比へも遜色のない高品質なケアが提供できるよう職員教育に努めたいと思ひます。介護ロボットについても見守りシステムを新規導入開始しており、システムの有効活用に力を入れていきたいです。大きな取り組みが続き、手探りではありますが利用頂いている利用者様や家族様への感謝を忘れず、高品質なサービスを提供できるようゆうらぎ全体で取り組みたいと思ひます。2024 年度、介護保険改定により BCP 事業計画、口腔管理体制、身体拘束廃止措置が義務化となっている項目については継続しマニュアル、計画書の整備や見直し、職員教育訓練に力を入れ取り組んでいます。また次回 2027 年度の介護保険改定で義務化が予定されている生産性向上への取り組みについても、生産性向上委員会でのディスカッションを継続し、今後の義務化に対応できるよう取り組みを行っていきます。ゆうらぎ全体として新たな取り組みがスタートする一年となり

ます。私たち職員一同、1日1日を大切にしながら精一杯取り組み、少しでも良い方向へ進んでいけるよう尽力してまいります。

ゆうらぎデイサービスセンター

2025年度 総括

デイサービスでは稼働率向上を最大の目標とし、新規利用者の獲得と利用回数増回を目指し、利用者に満足して頂けるよう職員個々が知恵を出し合い、常に新しい行事・レクリエーションを企画・実施し、日々変化のあるデイサービスを目指し頑張っており取り組んでいっています。

2025年度は、利用者の体調不良による入院、また高齢化に伴った独居での生活困難による施設入所が増え、目標の稼働率を達成することができませんでした。また特定利用者が数名亡くられたり、稼働率も大幅に落ち込んでしまいました。

まだまだ感染症も続いており、日頃からの対策と予防を徹底し、利用者・家族の理解を深め、事業所内での蔓延を防ぐ事につとめていきます。

今後も利用者の高齢化に伴い、体調不良で入院されたり、独居が難しくなり施設入所されたりする方が増えていくと思いますが、新規利用者の獲得と利用回数増回を目指すため、たくさんの喜びの声を頂くと共に、楽しく過ごす様子を SNS にて発信していくことで、選ばれる施設になれるよう職員一丸となって精一杯取り組んでいきたいと思っています。

2026年度 事業計画

デイサービスでは、利用者の「自立支援・重度化防止」を軸足に置いた介護を基本とし、利用者が可能な限りその居宅においてその有する能力に応じて自立した生活を営むことが出来る様サポートと、利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持を図るとともに、家族の介護負担を軽減するなどの役割もしっかりと担っていきける様関係事業所と密に連携をとり運営していきたいと思っています。

レクリエーションの充実を図ることで、体を動かすゲームや作品作りなどで刺激のある生活を送り QOL(生活の質)の向上により認知症予防に繋がったり、筋力を強めることで寝たきり予防をすることに繋がっていきます。

ゆうらぎ訪問介護ステーション

2025年度 総括

今年度も事業方針(目標)に向かい達成できるように支援し、目標達成に向け頑張っており取り組みました。感染ゼロを目標とし取り組み、職員感染もなく訪問介護員が媒介することもなく過ごすことが出来ました。災害や、感染症の発生時、サービスが継続できるように、BCPについて学び、訪問独自のBCPについてもみなおしてはいますがまだまだ不十分であり、今後の課題として、新入職員への指導含め BCP(事業継続計画)については、何かをもう一度学びなおして事業所として災害発生時にはどう対応していく事がいいのか、事業所独自の BCP も見直し完成できるよう取り組んでいかなければならない。

教育訓練についてはEラーニングを活用し、職員一人一人新たな気付きや振り替えることによりより一層意識も向上したかと思っています。勉強会等で学んだことを活かし視点を変えての取り組みを実施してきました。

ご利用者からの声や家族からの喜びの声もいただいております。利用者数は、施設に入居する方、ショートステイで入りされる方も居られ都度対応し、新規利用者も少しずつ増えました。ヘルパーが不足と言った状況でお受けできないことも多々ありました。

来年度も、訪問介護の満足度を上げ利用者に喜んでいただけるよう実施していきたいと思っています。事業所

の情報発信(ヘルパーだより)発行できていないので発行できるよう努めたいと思います。

2026年度 事業計画

季節により新型コロナウイルス、インフルエンザ等流行中、感染ゼロを目標に頑張ってきました。職員がご利用者に媒介する事無く訪問出来た事は本当によかったと思っております。今年度も感染には気を付けしっかりと対策した中で訪問を心がけ、ご利用者の生活環境についてもしっかりと目を向けて取り組んでいきたいと思っております。

2024年度よりBCP 事業計画等も義務化され、今年度も勉強会、訓練の実施等にも力を入れてきました。今後も義務化された項目について勉強会を確実に実施し、サービスの向上に繋げることができるよう取り組みたいと思います。

2025年度は職員人員不足もあり訪問受け入れが厳しい中、ご利用者の入れ替わりも多く、入院、施設入所のご利用者も多くあり、ショート等で出入りも多く稼働率もなかなか上がらない中、ご利用者のサービス内容を都度、見直しを行って、ケアマネージャーと密に連携を図り取り組んで参りました。今年度も引き続き多職種とも連携を取っていき、新規ご利用者の取得を行い、稼働率の向上も目指していきたいと思っております。

北淡荘拠点

2026年度 事業方針

- 1-1 サービスの「安全性」と「安心感」を高めるために、予防処置を立案し潜在的な原因除去に努め、事故の低減を図る。
- 1-2 利用者一人ひとりのニーズと意識を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上に努める。
- 1-3 BCP(事業継続計画)に基づき、大規模災害や感染症などの緊急事態が発生してもサービスが継続できるように訓練を実施する。
- 1-4 高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等の教育訓練を充実させることにより、倫理意識の向上に努める。
- 2-1 基本的な感染対策を実施しながらも、視点を変え、新たな気持ちで、利用者が日々喜びを感じられる生活環境提供に努める。
- 2-2 利用者情報(既往歴・生活歴)を把握することにより、身体的・精神的に安全・安心な利用者環境提供に努める。
- 3-1 施設の様々な機能や役割を SNS・広報を通じて情報発信することにより、地域における立ち位置を明確に示す。
- 4-1 施設の魅力・提供するサービスの内容等、積極的に情報発信することにより、法人のブランド力をアピールする。
- 4-1 良質なサービスを効果的且つ効率的に提供するために、ロボットや ICT と言った先進的な技術導入を検討する。
- 5-1 良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。
- 5-2 明確な目標管理(理解と合意に基づく目標設定)及び、達成に向けた支援を実施し、職員満足度向上に努める。
- 5-1 特定技能実習生の専門技術習得支援に努める事により、安定したサービス提供と組織への定着化を図る。
- 6-1 就業規則、介護保険、労務関係、その他の規則を遵守し、法令及び規則違反の撲滅を図る。

7-1 稼働率の向上・経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入を確保する。

7-2 経営状況と財務状況を正確に把握し、透明性の高い財務管理を実施する。

養護老人ホーム北淡荘

2025年度 総括

2025年度は、島外からの新規入所者確保が難しく、定員168名満床を達することが非常に困難になり、北淡荘創設から18年にして定員削減し定員150名としてスタートしました。前年度と同様、北淡荘稼働率向上を最大目標とし、1年間通して職員全体で取り組んできました。2025年4月稼働率100.6%からスタートした年度初めでしたが、2026年3月には91.3%、月平均97%という結果となりました。2025年度、新規入所者数10名、退所者数24名。

退所者の内3名は、施設内でのトラブル、職員への暴言・暴力といった原因で、共同生活に支障をきたし、施設規則を守れず、北淡荘での生活を継続していく事が困難であると判断し、措置変更を依頼した3名です。

下半期に入ってから、多くの利用者が亡くなっています。新規入所を上回るペースだったので、稼働が思うように上がらず低迷する結果となりました。

感染症については、2026年1月にインフルエンザ感染者3階1名、2月に2階1名と出ましたが、初動対応・感染者対応がしっかりと出来た事により、最初の感染者以上に感染者を出すことなく、終息を迎える事が出来ました。

2025年度は稼働率が後半低迷する結果となりましたが、稼働以外の部分では、北淡荘職員が今まで以上に結束し、より良くしていこうとそれぞれ意見を出し合い、自分たちで変えていこうとする姿勢が見られました。

本当に素晴らしい事だと思います。これからも厳しい状況は続いていくと思いますが、北淡荘の目標を達成する為、一人ひとりが協力し合い、目標の達成・成果を最大限に出せるよう、職員の力を借り、北淡荘職員全員で取り組んでいきたいと思っています。

2026年度 事業計画

2026年度の課題は、稼働率向上が最大の目標です。適切な水準を維持し、安定した収益を確保していく事を目標に取り組んでいきたいと思っています。

人手不足が深刻な中、人材育成の重要性を感じるので力を入れ、職員の成長、業務でのやりがいを見つけ、生産性の向上、職員の定着化を目指していきたいと思っています。

ほほえみ拠点

2026年度 事業方針

- 1-1. 褥瘡、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等のゼロ宣言。また、教育訓練を充実させ、倫理意識を向上させる。
- 1-2. 感染対策の徹底と感染予防を継続し集団感染ゼロを目指す。
- 1-3. 予防処置の徹底し前年度より重大アクシデント発生を減らす。
- 1-4. 食事ロス、食の満足度を向上させる。
- 1-5. 介護ロボットの導入を検討し、業務の効率化と介護負担の軽減を図る。

- 2-1. 事業所が有する人的・物的機能を活用し、事業所自ら又は地域の団体等と連携して、様々な地域貢献活動を積極的に展開する。
- 2-2. 各事業所において、緊急・困難ケースについて可能な限り受け入れるなど、セーフティネット機能を果たす。
- 3-1. 施設における様々な取り組み等を SNS・広報を通じて情報発信を行い、ご家族や地域等に対して必要な情報を提供する。
- 5-1. 職員の資質向上と職業倫理の徹底を図るために、各種研修会の開催や外部研修会に積極的に参加する。
- 5-2. 特定技能実習生への教育訓練を充実させ、良好な職場環境作りと介護技術とケアの質を向上させる。
- 6-1. 就業規則、介護保険、労務関係、その他の規則、法令の周知徹底を行い、法令及び規則違反を無くす。
- 6-2. 災害 BCP 計画に基づき地域住民と共同した災害訓練を実施し迅速に避難対処・対応が出来るようにする。
- 7-1. 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。

地域密着型特別養護老人ホームほほえみ

2025 年度 総括

開設から 14 年が経ち、2025 年度は『褥瘡、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント、集団感染ゼロ』を目指す。展示会・研修会・会議等への参加を通して幅広い分野での知識習得、資質向上、業務改善を目指す。クレーム、アクシデント及び重大アクシデント(行政への提出する事故)の件数を前年度より減少させる。クックデリの完全導入に向けた新たなシステムを確立し、安心・安全な食事サービスを実現する。利用者、家族、関係機関、地域住民や学生等との交流や地域貢献活動を行う。緊急受入や困難ケース等のニーズに合わせたサービス調整を部署間連携し、柔軟かつ積極的に行う。適切な情報収集、発信を行い、ご家族や地域等との情報共有や信頼関係を構築する。災害時に事業継続が迅速に行えるよう、災害 BCP 計画(訓練、勉強会を含む)の完成度を高める。法令順守および収入の確保(総稼働率:98.0%以上/年)と経費削減に取り組む。を大きな目標として進めてきた。

処遇面においては、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント『0』を達成できた。褥瘡に関しては入所時や入退院等により褥瘡発生に至ったケースもあるが褥瘡マネジメント加算等に係る PDCA サイクルも活用し、迅速な処置や対応と早期の治癒に繋がるよう努めた。集団感染においては、9 月度にコロナウィルス感染が利用者と職員合わせて 7 名、12 月度にインフルエンザ感染が利用者と職員合わせて 5 名の感染が確認され、肺炎や体調の悪化等により入院に至ったケースもあった。

重大アクシデント件数の比較としては、2024 年度が 3 件、2025 年度が 9 件となり、6 件の増加となった。2025 年度の重大アクシデントの内訳としては「職員の介助による事故(骨折、怪我)」が 1 件、「生活(動作)の中での事故(骨折、怪我)」が 7 件、「急変による救急搬送」が 1 件となった。

クレーム件数の比較としては、2024 年度が 2 件、2025 年度も 2 件となり、前年度と同件数となった。内訳としては「ご家族への接遇が不十分」が 1 件、「利用者の皮膚トラブル(家族からのクレーム)」が 1 件だったが、それぞれについて直接ご本人、ご家族にも謝罪、経緯の説明、改善策等を報告し、再発防止を徹底している。

食事については、5 月度に施設内調理から完全調理済食品の提供に移行することが出来た。完全調理済食品については、味付けや硬さ、量など利用(高齢)者の嚥下状態や嗜好に合わせた内容であり、ご当地メニューや行事食等も選択することが可能で職員、利用者からも好評である。また、施設内での行事や催し等を行う際には、完全調理済食品を注文せず、施設内調理に切り替え利用者のニーズに沿った行事食の調理、提供も行っている。

課題としては、完全調理済食品が工場で製造され、配送業者を通じて施設に届くため、契約業者、配送業者と共に衛生管理の徹底を継続的に図る必要があるため、今後も情報共有や改善策を講じながら安全、安心な食事の提供に努めていく。

利用者、家族との交流については、各利用者に希望を聞き、家族協力のもと『自宅に帰る(日中)』や『外出、外食』行事を実施し、5 月度には、利用者と共に地域の祭りに参加し、10 月度には『布引ハーブ園』に家族も含め日帰り旅行を行った。

地域貢献活動については、認知症サポーター養成講座を浦小学校や学習小学校の生徒を対象に実施し、民生委員(神戸市西区)や他法人からの施設見学、中学生(東浦中学校)のトライやるウィークの受け入れも行った。

また、コロナウィルス等の感染拡大により、時間や曜日など様々な条件付きの面会制限を行っていたが、8 月度より「午前:9:30~11:00、午後:13:30~16:00 の時間帯で前日面会可能」とし、利用者が家族や知人、地域住民と会える時間や交流できる機会が増え、更には職員と面会者が電話連絡だけでなく直接話をすることで今まで以上に情報共有やコミュニケーションが図ることが出来ている。

職員の育成、資質向上については、淡路ブロックの研修会を中心に各職種、専門職向けの研修、会議等に積極的に参加することが出来た。また、事業所としても初めての外国人雇用であったため、他法人施設への見学や情報交換なども行ったことで滞りなくスムーズな受け入れと適切な業務指導を実現することが出来た。

運営面については、1年間を通して新規長期入居者 5 名、新規の短期入所者 24 名の受け入れを行った。また、受け入れた利用者の中には独居や身寄りの無い方、認知症状の進行により在宅での生活が困難な方や医療面においてバルーンカテーテルを留置している方やインスリン注射が必要である方の受け入れも行った。

また、非常災害時、感染症拡大時(BCP)の勉強会、実地訓練をそれぞれ 2 回ずつ実施し、BCP 計画の見直し、更新も随時行った。また、運営推進会議のメンバーである町内会長や民生委員、市職員も施設内での避難訓練、災害時訓練等に参加し、非常災害時に備えた情報交換を効果的に行うことが出来た。

10 月度には淡路市、兵庫県の指導監査(運営指導)を受審したが、指摘(是正・改善)事項なく適切な事業所の運営と社会福祉事業の健全な経営が確保出来ていることの評価を得ることが出来た。

収入の確保については、新規加算の積極的な算定等により、予算以上の収益を確保することが出来た。

また、節約や節電、購入物品等の見直しや経費削減も継続的に行いながら、支出の抑制にも努めた。

ただ、数値目標としていた『(長期入居と短期入所を合わせた)総稼働率 98%以上/年』を達成できなかったため、来年度以降も目指していきたい。

2026 年度 事業計画

1-1.1-2. 『褥瘡、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント、集団感染ゼロ』を目指す。

1-3. クレーム、アクシデント及び重大アクシデント(行政への提出する事故)の件数を前年度より減少させる。

1-4. 直営と配食サービス(クックデリ)を活かした食事サービス(食品ロス、食の満足度向上含む)を実現する。

- 1-5.5-1.展示会、研修会、会議等への参加や ICT の活用を通して、業務の改善や効率化、負担軽減を目指す。
- 2-1. 利用者、家族、関係機関、地域住民や学生等との交流や地域貢献活動を積極的に行う。
- 2-2. 緊急受入や困難ケース等のニーズに合わせたサービス調整を部署間連携し、柔軟かつ積極的に行う。
- 3-1. 適切な情報収集や魅力的な情報の発信を行い、ご家族や地域等との情報共有や信頼関係を構築する。
- 5-2. 特定技能実習生の教育・育成プランの完成度を高め、必要な技能や知識の習得と円滑な就労定着を行う。
- 6-2. 災害時に事業継続が迅速に行えるよう、災害 BCP 計画(訓練、勉強会を含む)の完成度を高める。
- 6-1.7-1.法令順守および収入の確保(総稼働率:98.0%以上/年)と経費削減に取り組む。

千鳥会デイサービスセンターほほえみ

2025 年度 総括

2025 年度の目標は下記の通り。

- ・倫理意識の向上を図り、施設内外の「褥瘡・高齢者虐待・身体拘束・ハラスメント等」の早期発見に努める。
- ・感染症対策を継続し、集団感染ゼロを目指す。
- ・同じ事故を繰り返さないように対策の強化と共有を図り、重大事故防止に繋げる。
- ・緊急・困難ケースを可能な限り受け入れる。
- ・施設における取組や、活動等を、会報誌やSNSを通じて発信し、開かれたデイサービスとして知名度を上げる。
- ・職員の質の向上と職業倫理の徹底を図り、職員レベルに合わせた勉強会の実施と、施設内外の研修会に積極的に参加する。
- ・災害 BCP 計画に沿って、災害時に迅速に避難対応が出来るようにする。
- ・新しいデイサービスのあり方を検討実施し、利用者満足度を向上させる取り組みを行う。
- ・稼働率の向上や安定した予算管理を行う。

勉強会や普段のミーティングから各職員の倫理意識の向上を図ることで褥瘡・高齢者虐待・身体拘束・ハラスメント等の予防・早期発見に努めることができ、また迎え時や利用中の体温測定その他体調の確認により集団感染ゼロが実施出来た。アクシデントにおいて、利用者送り忘れ1件と迎え忘れ2件があり、事故防止委員会・品質保証委員会等で議題に挙げ、またデイサービス内でもレクリエーション会議・日々のミーティングにおいて周知と対策の強化、再発防止に努めている。困難ケースに関しても、初回(1回のみ)の利用で終了したケースもあったが、可能な限り受け入れできるように努めている。10月には兵庫県の指導監査(運営指導)を受審したが、指摘(是正・改善)事項なく適切な事業所の運営と社会福祉事業の健全な経営が確保出来ていることの評価を得ることが出来た。デイでの行事や日常の様子を『一期一会』(広報誌)や SNS 等で発信しながら、アンケートでも利用者から人気のある「お楽しみ入浴」の実施、夏祭り等が難しくなった代わりに敬老会や新年会で楽しんでもらえるよう取り組み、利用者満足度が向上するように努めた。

運営については、2024 年度 4 月から 2 月末時点で新規利用者が 14 名と前年度の約半数となり、利用日の追加や困難事例の受け入れ等も実施したが、特に 11 月から 2 月入院者が常に 10 名を超えたこともあり、2025 年度稼働率(見込み)は76.0% (昨年比△2.0%)、平均介護度も 1.7(昨年比△0.2)と低下したことから当初予算には及ばない結果となっている。

2026年度 事業計画

- 1-1. 居宅ケアマネとも連携しながら『褥瘡、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメントゼロ』を目指す。
- 1-2.1-4 感染対策の徹底と利用者にも感染予防の大切さを伝えることで、体調不良等による休みを減らし食品ロスをなくす。
- 1-3. 予防処置の徹底により重大アクシデントを含むクレームやアクシデント等の件数を前年度より減少させる。
- 2-2. 緊急・困難ケースについて、居宅ケアマネ等とも連携しながら可能な限り受入れを行う。
- 3-1. デイサービスの取り組みを SNS・広報等を通じてご家族・地域・居宅介護支援事業所等に対して情報発信を行う。また顧客満足が得られる新たな取り組み(小集団でのレク等)を行うことで、選ばれるデイサービスを目指す。
- 5-1. 施設内外の研修会参加を積極的に行い、職業倫理の徹底とスキルアップを目指す。
- 6-1. 就業規則、介護保険、労務関係、また道路交通法に対しても周知徹底を行い、法令及び規則違反を無くす。
- 6-2. 災害 BCP 計画に基づき、迅速に避難対処・対応が出来るようにする。
- 7-1. 稼働率の安定を保ち、また業務における無駄を除くことで適正かつ公正な予算・支出管理を行う。

小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ

2025年度 総括

2025年度は登録25名からスタートしましたが、入院者や、施設入居等他サービスへの移行も含めた利用終了者が続き、11月には登録実績が20名まで減少してしまいました。その間新規利用は2名と少なく、相談はあるものの、支援内容や費用面で利用登録には至らないケースもありました。登録人数の増員に向け、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所への空き状況の案内を行い、空きベッドを活用したショートステイの受け入れを行いました。年明けより新規利用相談が続き、1月2月で6名の新規利用登録を受けることが出来ました。ただ、年間を通しての平均登録人数は23.1名と、2024年度の27名から大きく稼働率を下げてしまいました。予算の面でも、当初予算から大きくマイナスとなってしまい、登録人数の減少に加えて、ご利用者の入れ替わりにより、介護度が軽度の方が多くなってきたことも影響していると考えます。職員状況の面では、昨年度末に介護主任が異動、10月に正規職員の異動があり、1月に新しい職員が異動してきましたが、3月末で1名退職を予定しています。職員人数はより厳しい状況となりますが、ご利用者への支援へ影響が出ないよう、各職員の協力を得ながら取り組んでいきたいと思っております。

サービス面では、昨年度に引き続き、一泊旅行を6月に実施し、ご利用者4名の方と京都へ行ってきました。夜間にご利用者1名が、お部屋から出ていかれるアクシデントがあり、ホテル内で怪我無く発見する事が出来ましたが、普段とは違う環境でのご利用者の変化や、リスクについても改めて実感する事となりました。2026年度は、大人数での日帰り旅行も含めて検討していきたいと思っております。10月には東浦地域の社協まつりへ、【キャラクター釣りとお楽しみくじ】で、初めて出店する形での参加を行いました。準備の段階からご利用者にも参加をしていただき、当日も、来店者の呼び込みや対応、ゲームの説明等、お店側の役割も担っていただきながら、地域の方との交流を図ることが出来ました。ご利用者の地域活動への参加の場として今後も継続していければと考えています。次に、感染状況について、昨年度までは冬場に新型コロナウイルスや感染性胃腸炎の事業所内での感染がございましたが、2025年度は事業所内での感染拡大はありませんでした。職員やご利用者の感染は起こりえますが、事業所内での拡大を防げるよう、引き続き対応して

いきたいと思います。

2026年度の目標としては、運営面では予算以上の実績を上げること、職員の外部研修の参加を掲げています。泊り利用がメインになってきたご利用者を、次のサービスへとお繋ぎし、地域のサービスの一つとして、小規模多機能サービスが必要となった方へ円滑に対応出来ることが、結果として登録人数が増えることにも繋がるのではないかと考えます。研修については、サービス評価自己評価の中で、職員からの意見があり、知識や技術、仕事への意欲の向上にも繋がればと思います。サービス面では、ご利用者の事業所内での過ごし方の充実を掲げています。ご利用者が入れ替わる中で、介護度が軽度のご利用者、男性ご利用者が増えたこともあり、ご利用者の状態に応じたレクリエーションや活動に取り組んでいただけるよう、考えていきたいと思います。

2026年度 事業計画

- 1-1. 適切な退院や介助、物品を使用して褥瘡の防止と、虐待や身体拘束、ハラスメントに対する職員の理解を深め、倫理意識の向上に取り組みます。
- 1-3. インシデント・アクシデントの対策の実行と効果確認により、再発防止や重大事故の予防に取り組みます。
- 2-1. 関係機関と連携期間を図り、地域での認知症サポーター講座の実施や、実習等の受け入れを行います。
- 3-1. ・介護度の軽いご利用者や、男性ご利用者が増えてきており、レクリエーションや活動メニューの充実に取り組みます。
 - ・三大行事の旅行について、日帰り旅行を含めた実施方法を検討して実施します。
 - ・各行事や活動、取り組みについて、SNSを通じてご家族や地域の方への発信を継続してしていきます。
- 5-1. 事業所内での研修だけでなく、外部研修へも参加を行い、事業所内で共有することで職員の資質向上に取り組みます。
- 6-2. 災害BCP計画に基づいた訓練の実施により、災害時に迅速に対応出来るよう取り組みます。
- 7-1. 1年間の当初予算を下回る事のないよう、新規利用登録の調整等に取り組みます。

LEVN

2026年度 事業方針

- 1-1. 利用者視点でのサービスの質向上と事業の価値創造
- 1-2. 根拠・目的を明確にした質の高いサービスの提供
- 2-1. 事故防止対策の強化
- 2-2 防災対策の強化。BCP(事業継続計画)を構築及び訓練により、災害時に全職員が行動できる体制作りを目指す
- 3-1. 地域社会との交流事業の実施により事業所の存在意義の確立
- 3-2. 地域・ご家族に信頼と協力を得るための事業活動の積極的な情報発信を毎月行う
- 4-1. 業務の効率化を図り超勤削減やワークライフバランスの推進実施
- 4-2. キャリアアップの仕組の構築(働きがいのある職場へ)
- 5-1. ICTの活用により業務の効率化と質の向上を図り、職員が利用者支援に専念できる環境を整備するとともに、働きやすく持続可能な福祉施設運営を実現する。
- 5-2 職員一人ひとりの成長とリーダーの育成を目指す
- 6-1. 介護・保育・障害事業制度及び法人規定・人事・労務等様々な法令順守の徹底

- 6-2. 日々のサービスの振り返りや制度を順守した業務への自己点検体制の構築
- 7-1. 現有資源の有効な活用と経費削減を行い収益差額の増加を目指す
- 7-2. 事業計画と実績との検証を行い、計画通りの事業運営を目指す
- 7-3. 運営の安定化を図るため、施設利用者の確保への取り組みの実施

小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもり

2025年度 総括

2025年度は利用者の自立支援に力を入れ役割や生きがい作りに取り組みました。取り組みを外部会議等で発信、利用者と一緒に小学校等への講話等を行い、事業所の知名度、取り組みのPRを行いました。入院や入所等はあるものの利用者の状態に合わせ必要なサービスに繋げ事業所の評価を上げることができました。9月にぬくもり内でコロナウィルス感染症がまん延し入院等により登録数減になりましたがその後登録者も回復し1月末時点で年間11名の新規依頼を獲得し昨年度平均月登録者25.9人、今年は26.1人と微増ではあるが増やすことができました。

サービスに関しましては利用者の特性を活かし役割や生きがい作りにも力を入れ利用者の自立支援に繋げることができました。

また昨年度同様継続し、職員が働きやすい環境作りにも力を入れ業務のマニュアル化や簡素化を行いました。

2026年度 事業計画

2026年度計画といたしましては引き続き感染予防対策を行い、ちびっこランドぬくもり、グループホームR AVIEとの交流や地域行事への参加することで地域住民との交流を深めていきます。

利用者、家族、近隣住民、主治医との更なる信頼関係作りにも努め、多職種でチームとなり支援していくよう努めます。アセスメントに重点をおき、利用者1人1人に合わせた支援、個別レクリエーションを行い事業所内に留まらず多種多様な資源を活用し利用者の生きがい作りに取り組んでいきます。

また法令順守の周知徹底と職員個々の知識、資質の向上に努めます。またペーパーレス化や業務の効率化、簡素化を推進し職員が働きやすい環境作りにも努めます。

2026年度も引き続き、小規模多機能型居宅介護事業所の特性を活かし柔軟な対応を行い、利用者へのより良い支援の提供を行うことで選ばれる施設を目指し登録者数確保に努め適切な事業運営を遂行していきます。

千鳥会在宅介護支援センター（居宅介護支援事業所）

2025年度 総括

。2025年4月より主任介護支援専門員3名と介護支援専門員2名でスタートを切りましたが、5月に1名減となり、人員配置の見直しを行い、居宅.在介LSA.の3本柱を組み調整しました。

居宅3.5名、在介を0.5名となったため、特定事業所加算ⅡからⅢへの変更により加算の減少のため、1件当たり98単位(980円)の減少となりました。

新規利用者平均は、2.1名であり、取りこぼしなく契約に結び付いていますが、前年度の4.3件より落ち込みました。件数では4月の121件から始まり7月～9月には124件を維持。10月～12月は1件の増減で維持できましたが、1月には6件の減少となりました。要因として特養.グループホームへの入所.入院など重なったことです。例年では秋以降の落ち込みはありますが、今年度は落ち込みを防ぐことができていましたが、1

月に施設の空きが重なり入所者が増えました。

ケアマネとして技術的な知識だけでなく、人と人の信頼関係を構築するコミュニケーション能力向上、礼儀正しさ、傾聴の姿勢、適切な情報提供、そして誠実なフォローアップが組み合わさることで、ご利用者ご家族からの信頼を得、新規獲得に向け行動を目指し取り組んだ1年でした。

一人ひとりのご利用者との出会いを大切に、来期も引き続き新規の積極的な受け入れ、ケアマネジメント改善による安定した在宅生活環境の提供を行い、目標件数を目指します。

2026年度 事業計画

2026年度の基本的な方針は昨期同様に、積極的な新規獲得および在宅生活の可及的継続のためケアマネジメントの向上の2点を中心に事業を進めていきます。

国の動向、保険者の方針など常に情報のアップデートに努め、また本人や家族のニーズをしっかりと聞き取り、より自立した在宅生活を送れるようにケアマネジメントを行います。

またそれを職員一人だけではなく、事業所全体で取り組んでいくために、ケース検討会議、事例検討会議の場を有効に活用し、事案の解決だけでなく職員のレベルアップを図り社会に求められているケアマネジャーを見極め目指していきます。

新規獲得に関しても、単に受け入れを止めないだけでなく、前記のようにマネジメントの質を高め、ケア会議や連絡会、自立支援会議、民協等でPRすることを通し、社会から求められるケアマネ像を追求することで件数の増加を目指します。

また新たに導入したケアプランデータ連携システムを活用し、業務効率化と経費削減に努め、利用者へのケアに専念し質の向上にもつなげ新規獲得を目指します。

千鳥会在宅介護支援センター（淡路市委託事業）

2025年度 総括

2025年度は、前年に引き続き、地域の様々な組織と繋がり、地域の問題、課題を見つけ、集め、検討、出来る事を考え取り組んできました。大きな成果としては、独居高齢者訪問事業、民生委員、社会福祉協議会、地域包括支援センター等と協力しながら3か所の健康王国会場の立ち上げ支援を行い、健康づくり、地域の集いの場を作る事ができました。淡路市では現在「健康王国」の推進に力をいれており、引き続き健康王国の立ち上げ支援等に重点を置いていきます。

また、委託事業の目標数値についても、達成する事ができております。

目指すべきは地域包括ケアシステムの構築だと考えますが、目の前の問題を解決、整理しつつ、形にできるように各機関と今後も協力していきます。

2026年度 事業計画

2026年度は、高齢者独居訪問、地域応援活動、100歳体操支援についても月間予算目標を重ね、年度の100%達成を目指します。タブレット、アプリを活用した『健康王国』に加え、100歳体操の新規会場の立ち上げにも積極的に取り組み、資源である地域の集える場が増える様に取り組めたらと考えております。

また、各組織、各機関と協力、連携を行う中で信頼関係を深め、居宅介護支援事業の利用者の確保にも繋がる動きや関わりを工夫します。

少子高齢化、団塊の世代の2025年問題、人材、サービスの不足等が叫ばれて久しいですが、解決にはいたっておりません。それぞれの問題により、淡路市では高齢者の暮らしが脅かされています。高齢者の生活を守るために課題の解決方法を考えたとしても、すぐに政策や実行に移れない内容も多いですが、解決

に繋がる様に検討、議論、提案を重ね、誰もが安心して暮らせる仕組みである、地域包括ケアシステムの構築に向け、取り組みを継続します。

家族介護教室・家族介護者交流事業（淡路市委託事業）

2025年度 総括

家族介護者教室は実際に介護をしている方や介護に興味ある方を対象に介護の知識や技術、介護者自身の健康管理、介護者同士の交流の場づくりなどに配慮し、計画しております。

家族介護者教室については、予定していた5回全てを開催する事ができました。平均参加者数7名となり、昨年度よりは減少傾向ですが、参加人数安は定めています。今年度はコロナ禍以前に参加されていた現役介護者の方1名が継続して参加される様になりました。

家族介護者交流事業については、淡路島で初の泊りとデイサービスを兼ね備えた施設であるそよかぜを見学し、その後、大塚美術館を巡り、現役介護者の方の気分転換につながりました。8年ぶりの外出事業となり、介護者同士の交流が楽しめ、リフレッシュできたと好評でした。

2026年度 事業計画

家族介護者教室については前年同様に年5回を予定。体操、介護タクシーの利用、福祉用具、施設見学、座談会、防災、他様々な介護保険サービスについて説明、他の内容を選定、組み合わせ実施。依然として介護者OBの方が多く現状となっているが、現役で介護を行っている参加者についても家族会や各ケアマネジャーを通じ、案内し、参加者数が増える様に募っていきます。

高齢者住宅等安心確保事業(淡路市委託事業)

2025年度 総括

高齢者住宅入居者が地域に於いて自立した日常生活を営める環境、相互支援が可能なコミュニティの形成。効果的な社会資源の利用による、高齢者住宅入居者のQOLの維持、向上に努める。

2026年度 事業計画

1. 高齢者住宅入居者緊急時への24時間、365日対応。
 2. 行政、民生委員、社協、介護支援専門員、地域住民等との情報交換による連携。
 3. 生活援助員としての基本サービス、力量の向上。
 - ・週1回以上の訪問もしくは電話での安否確認、相談、緊急時の対応の継続。
 - ・入居者の介護、医療等に関する生活相談、情報提供を行う。
 - ・入居者の生活上の問題点について行政、介護サービス事業所等の関係機関へ連絡し、適切な社会資源の利用や自立支援を促す。
 - ・教育訓練・研修による生活援助員の力量の向上を図る。不足している資質を把握し、向上できるようにする。
 - ・ 「気付き」を築く感性の強化の為の教育訓練・研修への参加。
 - ・ 組織内の連携向上による、事業活動の円滑化に努める。
 - ・ コミュニケーションによる入居者との信頼関係の向上と、生活上の安心の確保に努める。
- * 淡路市との委託契約の内容を基に取り組みを行う。

ちびっこランドぬくもり

2025年度 総括

本年度は、「子ども一人ひとりを大切にする保育」を心掛け、子どもの興味や関心に寄り添いながら日々の保育および行事を実施してきました。行事においては子どもたちが主体的に参加し、保育者と共に楽しみながら経験を深めることができ、豊かな成長につながったものと感じています。また、小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもり、グループホーム RAVIE との交流、地域交流等の実施を通じて、子どもたちが地域の中で多様な人とのふれあいを通した貴重な経験となり、思いやりの心を育む機会となりました。

一時保育事業に関しては、保護者のニーズに寄り添いながら柔軟な受け入れを行い、安心して利用していただける体制を整えることができました。保護者からは、「安心して預けられる」「子どもの成長と一緒に喜んでもらえる」といった喜びの声も多数いただき、信頼関係の構築にもつながった一年となりました。

職員教育においては、日々の振り返りや情報共有を通じて職員同士の連携・資質向上に努めることができました。

今後も、子どもたちが安心して過ごし健やかに成長できる環境を整えるとともに、保護者や地域との信頼関係をより一層深め、職員の専門性向上と保育の質の充実に努めてまいります。

2026年度 事業計画

2023年2月に定員6名に開設しスタートしてきました。地域の保育ニーズの高まりを受け、職員の確保も行い、2026年度より定員を12名に変更し、新たな体制でスタートいたします。定員増員後も、子どもの発達や個性を大切にしたい家庭的で温かい環境づくりを継続します。少人数の良さを活かし、安心できる人間関係の中で自己肯定感を育む保育を実践してまいります。保護者の多様な就労形態や子育て観に寄り添い、日々の丁寧な情報共有や相談体制の充実に努めながら、保育参観や地域交流の機会を通して、家庭と保育所、そして地域がつながる子育て支援拠点としての役割を強化します。

保育の質の向上と業務効率化を目的として ICT の活用についても検討を進めてまいります。具体的には、登降園管理や連絡帳、保育記録等の ICT 化を視野に入れ、職員の業務負担の軽減と情報共有の円滑化を図ります。

安定した事業運営を継続するとともに保育の質の向上と職員の専門性の強化を図り、地域に信頼される保育施設を目指します。

グループホーム RAVIE

2025年度 総括

事業開始から3年目を迎え4月に定員7名、7月に定員10名に拡大し、新規利用者・収益の確保に取り組みました。現在利用者9名ではありますが、多方面から利用問い合わせがあり、見学や体験利用を進めてきました。現状本利用までには至っていませんが、引き続き、関係機関に向け、空床のお知らせを行い、利用者確保に向け、取り組んでいきます。

また、昨年度に引き続き、稼働率向上に向け、週末や祝日の利用に取り組んでまいりました。就労が休みのときには自宅へ帰られているご利用者もおられますが、週末や祝日など RAVIE でイベントを開催し、ご利用者に参加していただくことで、RAVIE の利用につながり、稼働率の向上に取り組むことが出来ました。今年度は、新規利用者が増え、以前から利用しているご利用者から、掃除や洗濯の仕方を教えるなど、互いに協力することにより、新規利用者も共同生活に慣れ、ご利用者同士も趣味のゲームを通して、関係性も良好に

保っています。

毎月、イベントを開催し、参加することで、ご利用者にとり楽しみのある生活が送れたかと思えます。

また 他事業所のご利用者・園児との交流や、地域との交流を行い、ご利用者にとって貴重な経験・体験をすることが出来たと思えます。9月に開催したバーベキューでは、大好きなお肉を焼いて、おなか一杯食べ、その後は、卓球大会を開催し、白熱した試合が繰り広げられ、大いに盛り上がりました。

年間を通して、フットサル交流会に参加し、体を動かし、汗を流し、リフレッシュすることができました。

広報活動にも取り組みました。インスタグラムを通じて、RAVIE の事業の紹介をすることが出来、たくさんの方にRAVIEの取り組みを見ていただけたと思えます。いいねやコメントもいただくことが出来、RAVIEの事業に関し、興味や関心を持っておられることを感じ、大変うれしかったです。LEVN としても広報誌を発行し、市内の関係機関へ広報活動をすることが出来ました。ご利用者のご家族にも広報誌をお配りし、ご利用者のRAVIEでの生活の様子を見ていただけました。

感染症に関しましては、8月に職員1名が新型コロナウイルス感染1名おりましたが、それ以上拡大することなく、大きな被害には発展しませんでした。日頃より、感染対策や、ご利用者の体調確認を行うなど感染予防に取り組んだ成果だと思えます。

職員の知識や技術向上のため、事業所内の教育訓練や、外部研修・講習に参加しました。直接援助にあたる職員にも外部研修に参加してもらい、ご利用者の生活を支える障害福祉施設職員の役割と専門性について学んできてもらいました。学んだことを業務内に落とし込み、ご利用者の支援に取り組みました。

運営に関しましては、本部より繰入を行いながらの運営をなっております。今年度は、増床し、定員を上げ、運営することが出来ましたが、職員不足により、当初の予定通り行かず、ご利用者の利用開始も時間を要してしまい、現在も1床空き状態となっております。早急に新規利用確保に向け、取り組んでおります。

地域での活動に関しましては、淡路島内全域で行われている淡路障害者自立支援協議会のサービス管理責任者部会に属し、島内の障害事業についての現状把握や情報共有に取り組みました。今年度より、3分野に分け、専門的に詳細な話し合いを進めることが出来ました。市内におきましては、津名の地域ケア会議に出席し、津名地域の現状や課題などを多様にとらえ、高齢や障害を総合的に考えた取り組みを行いました。

2026年度 事業計画

2026年度は、RAVIE稼働率の向上に努め、収益の確保に努め、経費削減を継続し、安定した運営が行えるように、取り組みとともに、昨年度に引き続き、ご利用者がRAVIEで過ごしたくなるようなイベントの開催、日々の支援について職員全体で行動していきます。

また今後起こりうる災害発生に関しても、業務が継続できるよう、BCP計画の活用訓練を行い、見直しを行いながら、運営を進めていきます。

グループホームしおさい・しおさいデイサービスセンター

2025年度 事業方針

- 1.一宮圏域を中心とした地域の認知症ケアに、入居・在宅サービスとも主たる社会資源として貢献する。
共用型デイサービスではニーズに応需できるよう、職員体制を整え、業務効率の適正化のもと2ユニットでの実施を図る。
- 2.住まいは変われども同じ地域で地域住民としての利用者の暮らしを支援していく。利用者個々が地域の活動に継続的に参加できるよう事業所として積極的な働きかけを行う。

3. 所属法人の垣根を超えた関係機関のネットワークのもと、福祉学習や地域福祉活動に共同して携わる。福祉圏域における事業所の役割や存在価値を高める。
- 4.5 専門職を揃えたチームケアのなかで、職員の高年齢化にあっても長く活躍できるよう業務の在り方や働き方を得意な分野にて互いにサポートし合う体制をつくる。職員が自らの仕事にやりがいを持って、自らの支援とその意義が実感できることで、職場へのエンゲージメント(帰属意識)が高まる。
4. 職員の高年齢化にあたり、過度な心身の負担なく業務が継続できるよう、利用者職員にとって安全安楽な介護が提供できる施設環境の設備を改善していく。
6. 専門性の高い居住・在宅サービス提供の結果として稼働率の維持に努める。人員配置に応じた共用型デイの2ユニット実施と物価高騰におけるホテルコストの見直しを行い、収益の安定をより確固たるものとしていく。

2025年度 総括

2025年度はコロナ禍以前の日常を取り戻す1年となりました。事業所での生活の充実はもとより、1年を通してご利用者とご家族の外出、外泊が無事に行えるよう意図的に支援してきました。また地域住民として事業所より積極的に地域活動に参加する機会を設けてきました。つきましては、事業所とご家族互いの信頼関係をベースにした感染症予防への共通認識を保ち、互いの体調や健康状態の情報交換をしながら、感染症の流入発生を防ぎながら、取り組みを継続しています。事業所で同じ住み慣れた地域で過ごす姿を、ご家族とともに見守り支える事で、ご利用者の心身の活動により影響を与えることをあらためて感じています。また同じ圏域の社会福祉協議会や他法人特別養護老人ホームとネットワークを構築し、学校やこども園との交流などの機会にも定期的に参加再開できています。

事業運営においては、共用型認知症デイへの相談依頼が多数ありました。ここ数年の専門的な認知症ケアへの姿勢と取り組みが地域に必要とされている結果として受け止めています。長らく事業所定員3名にてサービス提供してきましたが、緊急性や非代替性への相談もあり、年度途中の9月より保険者に確認をしながら、1ユニット3名を超える相談依頼には、曜日限定や臨時的に2ユニット目での共用型認知症デイの実施も提供しています。常時の2ユニットサービス提供には法令上の人員配置の課題もありますが、十分な職員体制がとることができれば、地域のニーズに応需できる体制づくりが求められています。今年度も専門性の高い認知症ケアの提供のもと、入居利用者への質の高いサービス提供、ショートステイ・共用型認知症デイサービス含めた在宅サービスへの支援にも努め、地域のセーフティネットとしての役割を担っていきます。

2026年度は事業所開設23年目を迎えます。長年活躍した職員の高年齢化が更に顕著となっています。引き続き長く培った特殊なスキルを活かし末永く職員が活躍できるよう体力的に負担の少ない事業所の設備環境や業務改善を図ります。引き続き旧一宮町圏域におけるただ一つの認知症の専門的なサービスとして、施設サービス在宅サービスを一体的に提供し、地域の社会資源として今以上に機能し続けることが責務ともいえます。それに応えながら、地域密着型のサービスとして、各関係機関との連携や地域住民との交流の機会も積極的に見出していきます。地域に必要とされるグループホームしおさいの位置づけが確立し、職員が自らの仕事や職場に誇りが持て、事業所へのエンゲージメントが高まるなど、利用者家族地域への認知症ケアと職員の活躍が好循環していけるよう事業所運営を行っていきます。

2026年度 事業計画

2026年度も旧一宮町におけるただ一つの認知症対応型共同生活介護施設として、「グループホームしおさい」ならではの認知症ケアを提供し、認知症ケアの地域の要として機能していきます。複数の専門

職の構成で多様なアプローチとチームケアにより、認知症症状の日常生活動作等の悪化を防ぎ、予防、緩和を図ります。施設サービス在宅サービスへの支援により、グループホームの多機能化をはかり、地域のセーフティネットとしての役割を担えるように認知症ケアの還元に努めます。課題としては、一段と職員の高年齢化も顕著となっています。職員相互の融和と協力、交互に交代できる業務体制のもとで、物理的な環境（ハード面）を整備することで重介護の予防、身体的な負担の軽減となるように改善に取り組みます。運営については、地域のニーズに応じて共用型認知症デイの2ユニットでのサービス提供を行えるようにします。予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行い、利用者職員のための環境整備も含め大規模な修繕が実施できるようにシュミレーションを立案し、計画立てて実施遂行していきます。

佐野デイサービスセンター

2026年度 事業方針

1. 単独の通所事業所の強みを活かせる様、事業所内教育を用いて職員個々の質の向上を図る。
2. 感染対策を講じながら、感染症の位置づけが変化する中での外出行事や施設内レクの向上を図る。
3. SNSを活用し、社会に情報発信を行う。
4. 職員の声を聴き、働きやすい環境づくりを行う。
5. 専門職としての質の向上を図るため、積極的な内部・外部研修への参加を図る。
6. 法令に関して勉強会を行い、コンプライアンスの徹底を図る。
7. 稼働率の向上、経費削減を行う事で安定した収入を確保する。

2025年度 総括

今年度の稼働率の平均は93.9%(前年度比較+6.4%)。延べ利用者数6130人(+442人)。新規利用者数27名(±0名)となっており、利用者確保、収益確保ができました。6月に介護職員1名が1名常勤職員から非常勤に移行しましたが、5月に派遣会社から看護職員を、9月に常勤の介護職員を向かえ、より一層職員で力を合わせ、業務改善、業務分担、業務内容の見直しを図ることでサービスの質を落とすことなく、デイサービスとしてのサービスの維持ができました。4月に車両事故があり、職員・利用者にもご迷惑をおかけすることになり、今後より一層の安全対策に努めていけたらと思います。感染症については、感染予防対策を行う事で、安心・安全に利用していただくことができました。職員が増えたことで今まで出来なかった行事にも挑戦することができ、出来る範囲の中で利用者満足度を向上させる取り組みはできました。

2026年度 事業計画

2025年度は、引き続き選ばれるデイサービスとしての取り組みを維持、向上する事で、収益を確保していきたい。また、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP計画に基づき災害・感染症発生時の対応など、訓練や準備を行い安心・安全な運営に努めたい。

ちびっこランドちどり

2026年度 事業方針

- 1-1 利用者満足の向上を目指し、新たな取り組みやサービスを実施を図る
- 1-2 他事業所との連携を図り、サービス向上を目指す。
- 1-3 地域や家庭のニーズに応じたサービスの展開をはかる。
- 2-1 すべての子どもが健やかに成長できるよう、適切な環境の中保育を行う
- 2-2 BCP 計画を構築し、災害時における対応力の向上を図る。
- 3-1 利用者・家族・地域の声に耳を傾け、SNS 等を通じて情報発信を定期的に行う。
- 3-2 地域社会・他事業所との交流を積極的に行う。
- 4-1 各職員の特性が活かされるよう、働きやすい職場環境を整える。
- 5-1 常に日々の業務を振り返り、改善の意識を持つ
- 5-2 各種研修会の開催や外部研修会に積極的に参加する。
- 6-1 保育理念を踏まえ、常に法令等を遵守するとともに報告・連絡・相談を円滑にする環境を整える。
- 7-1 経費削減に努めながら、事業所運営に必要な安定した収入の確保する。
- 7-2 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。

2025年度 総括

2025年は、月極園児12名の入所から始まり、8月・10月に1名ずつ増員し、計14名で保育をすすめてまいりました。一時預かり保育に関しましては、新規の方の依頼の増加や、卒園した園児の継続的利用など、月極園児だけでなく、地域の方に多く利用していただき大変嬉しく思いました。

日々の保育では、異年齢児が安心、安全に過ごすことのできる保育環境を整え、子ども達が自ら考え、やる気を持って取り組むことが出来る保育を職員で計画し、実行してきました。今年度は新しい行事として、近隣の小学校の体育館をお借りし、運動会を開催しました。皆が楽しめるようにと、月極園児だけでなく、卒園した園児、ご両親、祖父母の方も参加できる種目を計画し、当日は多くの方に参加していただきました。開催後には保護者の方から、喜びの声も多くいただくことが出来、職員一同次への励みとなりました。

食育活動におきましては、今年度も季節の野菜を育て、収穫し、クッキング活動を計画しました。夏場の猛暑の影響で、野菜の生育にも影響が出てしまいましたが、その場に応じた計画を職員間で考え、子どもたちが食べ物について興味・関心を持てるよう配慮してきました。種や苗を植え、水をやり、野菜が大きくなる過程を観察し、育った野菜を収穫し、収穫した野菜を食べるという一連の経験は、子ども達にとって貴重な経験になったことと思います。

保護者に対する支援におきましては、子育ての悩みに共感し、助言をし、一人ひとり向き合うよう努めてまいりました。また、SNS を活用し、園生活の様子、行事の公開等、子どもたちの成長を届けることに努めました。

保護者の皆様にもご協力を頂いたおかげで、大きな混乱もなく、子どもたちが安心して園生活を送り、無事に一年を終えることが出来ました。今後もより良い保育を提供し、子ども達が笑顔で過ごせる保育園を目指し、努力していきたいと思っております。

2026年度 事業計画

子ども達が健やかに成長し、安全で楽しく、主体的な園生活を送れるよう、保育環境の工夫と設備充実を図ります。子どもたちが、自らやってみようと思える保育計画を作成し、何にでも経験する・体験する場を増やしていきます。他の施設や地域の方々との交流を大切にしていきます。園児・職員の安全を第一に考え、災害時や感染時の対策を行うとともに、臨機応変な変更・見直しを行います。SNS で園での様子や情報を提供し、一時保育や、土日保育など、地域や各家庭のニーズに応じた保育を行います。職員間で日々の保育や業務の振り返りを継続的に実施し、共通の理解と協調性を高め、保育の質の向上に努めます。

福祉用具貸与事業所

2026年度 事業方針

- 1-1. サービスの「安全性」と「安心感」を高めるために事故防止に努める。
- 2-1. 利用者一人ひとりのニーズと意識を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上に努める。
- 3-1. 福祉用具の事故事例など貸与品目にあたるものがあれば情報を伝え事故を防ぐ。
- 4-1. 教育訓練を充実させることにより、倫理意識の向上に努める。
- 5-1. 各種法令を遵守し、適正な収入を確保し、健全な運営を実施する。
- 6-1 稼働率の向上・経費削減に努めることにより事業所運営に必要な安定した収入を確保する。
- 6-2 経営状況と財務状況を正確に把握し、透明性の高い財務管理を実施する。

2025年度 総括

2025年度も北淡荘の利用者に福祉用具の貸与を行いました。福祉用具を利用して頂く事で、利用者が可能な限り自立した日常生活を送ることができるよう、利用者の希望や心身の状況・生活環境などをふまえ、今後も適切な用具を選び援助していきたいと思っています。

2026年度 事業計画

福祉用具とは、車いすや手すりなど、高齢者や障害者の自立をサポートし、介護する方の負担を軽減する用具を指します。

福祉用具貸与事業は、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送る事ができるよう、指定を受けた事業者が、利用者の希望や心身の状況、生活環境などをふまえ、適切な福祉用具を選ぶための援助や取り付け、調整を行い福祉用具を貸与します。